

教育×地域×施設 縦割りを越えた協働

～たじりっこ安全フェスタ～

近年、人口減少や少子高齢化がすすみ、地域のつながりが希薄化する中で、分野や種別を越えた連携の取り組みが重要となっています。

今回は、地域教育協議会(㊦)と社会福祉施設、地区福祉委員会、社会福祉協議会が連携して行う取り組みについて取材しました。同じ地域をフィールドにしているさまざまな分野の団体が連携していく秘訣を伺います。

たじりっこ安全フェスタとは
令和8年2月に田尻町立小学校で行われた「たじりっこ安全フェスタ」には、田尻町内に住む小中学生、園児とその保護者たちが参加しました。



体験はすべて同じ場所で、実際の街中をイメージして実施。高齢者疑似体験や車いす体験をしている子どものすぐそばを、自転車安全講習の自転車が通り抜けます

教育協議会(㊦)「たじりっこtry・あんぐる」(以下、try・あんぐる)が中核となり、町内の特別養護老人ホーム、フィオーレ南海・田尻町地区福祉委員会・田尻町社協が協力して実現。令和7年度からはじまった「市区町村域しあわせネットワーク体制整備助成事業」を活用して実施されました。

フェスタでは泉佐野警察による交通安全の講話の後、自転車安全講習と高齢者疑似体験、車いす体験を行いました。体験した子どもからは「普段自転車でスピードを出してしまうけれど、車いすの人は避けたくても避けられないこともあるんだと分かった」という感想が聞かれ、互いの立場を想像する機会となりました。

その後の縁日遊びでは、地区福祉委員会やtry・あんぐるのメンバー、フィオーレ南海の職員がスパーボールすくいやヨーヨーつりなどを通して子どもたちと交流しました。

「子どもたちは自分の祖父祖母くらいしか高齢者を知らないことも多い。疑似体験だけでなく、こういった地域行事を通して、地域にはいろんなおっちゃん・おばちゃんがいることを知ってほしい」と地区福祉委員は話します。

福祉的な学びと楽しい交流が融合した、多世代が笑顔で集う一日となりました。

「try・あんぐる」の名前は、学校・地域・家庭を結ぶ「トライアングル」と、挑戦の「try」がかかっています。町内の地区福祉委員会や保護司会、PTAなど多様な団体が参画しています。

以前は教育分野と福祉分野の活動が縦割りになっていました。

「子どもたちは地域コーディネーターの明貝一平さんは「スタッフには『子どもたちと楽しんで』と声をかける。関わる大人たちも楽しいことが一番大切だと思う」といいます。関係する地域の方が「来てよかった、楽しかった」と思える体験を積み重ねることが、次の活動への原動力となります。

協働の秘訣
「try・あんぐる」のメンバーは、学校・地域・家庭を結ぶ「トライアングル」と、挑戦の「try」がかかっています。町内の地区福祉委員会や保護司会、PTAなど多様な団体が参画しています。

地域教育協議会(すやかネット)㊦
「地域の子どもの地域で育てる」という理念のもと、学校や地域団体が連携し、子どもたちの健やかな成長を支えるためのネットワーク組織です。中学校区ごとに学校と地域の交流イベントや登下校の見守りなどに取り組んでいます。

各団体のメンバーから、協働を通しての思いや大切にしているポイントを伺いました

縦割りを越え、大人が楽しむ姿から「顔の見える関係」をつくる

try・あんぐるには多様な団体が参画しています。

相互に顔が見える今の関係があるからこそ、イベントの際にお互い声をかけあって協力できています。コーディネーターとして意識しているのは、子どもたちに「いつものおっちゃんや」と顔を覚えてもらうこと。これが地域での見守りにもつながると考えています。

田尻中学校区地域教育協議会(たじりtry・あんぐる)

会長 堀江 正也さん
地域コーディネーター
明貝 一平さん



施設は、単にケアを提供する場所ではなく、コミュニティの一員

行事の手伝いや地域と関わるボランティア活動は、利用者にとって大切な社会参加の機会です。職員にとっても、地域とつながることで、専門性を発揮する機会や仕事のしやすさを実感できます。

また、顔が見える関係があれば、できること・できないことを正直に伝えあい、助け合えるといます。

社会福祉法人南海福祉事業会
特別養護老人ホーム
フィオーレ南海 施設長
阿形 純次さん

社協はあえて裏方に。同じ方向を向けるよう賛同者を増やしていく

少人数の社協だからこそ、多様な関係を巻き込み、協力体制を築くことが重要です。社協が中心となって目立つのではなく、いかに「賛同者を増やすか」を大切にしています。子どもが参加すれば、その向こう側にいる保護者にも福祉を知ってもらうきっかけになります。

同じ方向を向いて、無理のない範囲で、楽しみながら協力しあえる環境づくり。小さな町だからこそ「顔の見える関係」を武器にして、これからも地域を支えていきたいです。

田尻町社会福祉協議会
事務局長 越谷 賢二さん

協力することで大きな力に。現役世代に活動を知ってもらう機会

これまでは個別の団体だけで動く参加者が減ってしまう悩みもありましたが、今回のように協力することで大きなイベントができました。

私たち福祉委員会にとって、子どもたちの保護者である親世代に活動を知ってもらう機会は貴重です。ここでの交流が、将来のボランティアにつながってほしい。お互いに高齢者も子どもも尊重しあえるような、多世代が交流できる場をこれからも大切にしていきたいです。

田尻町地区福祉委員会
吉開 育子さん

「市区町村域しあわせネットワーク体制整備助成事業」(大阪しあわせネットワーク)㊦

市区町村域での社協と施設の種別を超えたネットワークの強化を図ることを目的とし、地域の福祉力やセーフティネットの充実のために助成。本助成事業は、府内の社会福祉法人・施設による拠出金により運営されています。



ズームアップ! ZOOM UP! 笑顔 咲かせる人 vol.40

福祉の職場で働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。今回登場するのは、入社1年目の木田さん。やりがいや今後の抱負について聞きました。



【地区福祉委員会活動】vol.4

つながりを絶やさない「だれでもカフェ」

ひらかたし しょうだいいこうく ふくしいいんかい
枚方市 招提校区福祉委員会



福祉委員会の皆さんとCSWの岡本さん

招提校区福祉委員会(以下、福祉委員会)が実施する「だれでもカフェ」はその名の通り、年齢や立場を問わず、誰もが気軽に立ち寄れる場です。会場では和気あいあいとした雰囲気、あたたかなつながりが育まれています。今回は、活動のようすや、コロナ禍でも工夫しながら活動を絶やさず続けてきた思いを紹介しします。

口コミで広がるあたたかな交流の場

「だれでもカフェ」は、毎月第3土曜日に開催しています。100円で挽きたてのコーヒーやお菓子を囲みながら参加者同士が会話を楽しみ、歌やクイズなどの企画も取り入れて、初めての方でも参加しやすい雰囲気をつくっています。

平成30年開始当初は参加者が少なかったものの、回数を重ねるうちに口コミで少しずつ参加者の輪が広がり、現在では毎回席が足りなくなるほどの大盛況です。

運営は福祉委員会のスタッフを中心に役割分担しながら行っています。企画や提供するメニューはその都度工夫しており、2月には校区の餅つき大会で作られたお餅が振る舞われました。参加者からは、「この活動が毎月の楽しみ」「ここに来てお話をすると元気になる」といった感想が多く聞かれます。



みなさんとびっせりの笑顔です

※相談援助を志した原点
もともと福祉に関心があったものの、踏み込む決心がつかないでいた。そこで大学での4年間で自分の進路を考える期間に充てることに。ゼミでは社会的養護について学び、卒業後3年間は障がい児の入所施設で勤務しました。勤務する中で、退所後の子どもたちに支援が届きにくいことを実感。「施設を退所した後子どもたちの周りに相談できる人がいれば」という思いから相談援助の仕事に興味をもち、社協への入職を決意しました。

※CSWはなんでも相談員
現在はCSW、生活困窮者の家計相談、広報紙の発行、庶務といった幅広い業務に携わっています。CSWとして担当地区からは高齢者の生活相談や地域のつながりづくりなどさまざまな相談が寄せられます。専門機関と連携しつつ、多くの知識を身につけられるように日々学んでいます。

※相手が安心して話せる雰囲気づくり
心がけていることは、相手が安心して話せる雰囲気づくりです。



社会福祉法人 島本町社会福祉協議会
木田 一愛さん

心して話せる雰囲気づくりです。礼儀を大切にしつつ、状況にあわせて重々しくならず相談できるような意識しています。

この1年間で地区の方に顔を覚えてもらい、地域で困りごとを抱えている人の話を聞く機会が増えました。島本町は町民が温かいところが魅力で、少しのことでも感謝の言葉をいただける方も多く、私自身も常に感謝の気持ちをもっています。

※世代にあわせた広報を検討
福祉と接点のない人にはまだまだ社協を知ってもらえないと感じます。今は、広報紙やInstagramなど世代にあわせた広報の方法を検討中です。

社協のことを知ってもらうためには、まず自分が知るこゝとが重要だと考えます。これからもっと社協について知ってきたいです。

また、参加者から「手伝いたい」といった声があり、実際にスタッフとして加わることも。住民同士の「支え・支えられる」関係がここにはあります。

「だれでもカフェ」目的は…

この活動には安否確認の意味もあります。スタッフのリーダー村田節子さんは「参加者名簿を毎回確認しています。普段参加している方が続かない場合、お家によろすを見に行き、無事かどうかを確認しています」と話します。

居心地の良い場を提供するだけでなく、カフェに来ていなくても安心につながる点が、この取り組みの特徴です。

コロナ禍でも続ける思い

コロナ禍ではテイクアウト方式に切り替えるなど、活動方法を工夫して、継続してきました。コーヒーとお菓子、クイズの用紙などをセットにして手渡し、「最近どう?」などの声かけをしていました。かたちが変わってもつながりを絶やさない工夫をしながら継続してきた背

カフェでは枚方市社協のCSWによる「福祉なんでも相談」(出張相談会)を同時に開催しています。



おかもと せいや
●担当の岡本 聖也さんから
福祉委員会の皆さんに一言!!

「この場での何気ない会話から、皆さんの困りごとを聞かせてもらい支援につながるケースもあります。一緒に楽しく関わらせてもらえることが本当にありがたいです!!」

景には、福祉委員会会長の柿木正裕さんの強い思いがあります。「居場所をつくる活動に力を入れています。福祉は自分一人じゃなくて、みんながつながって成り立っている。だからこそ、どんな時もつながりを感じられる場をつくり続けることに意味があると、思っています」と柿木さんは語ります。

地域で活躍する

民生委員・児童委員さん

NO.52



交野大好き
交野市(民生委員歴10年)
原田 享子さん

Q 質問数珠つなぎ

Vol.51 石谷さんから質問
民生委員の活動を行うにあたって、時間配分はどのようにしているか?

A 原田さんの回答

ウォーキング、買い物、孫と遊ぶなど何かの活動を兼ねて、見守りや声かけといった民生委員の活動に取り組んでいます。

見守り相談では「じっくりと真剣に話を聞くこと」を心がけています。以前、見守り活動中に詐欺被害を防いだことがあります。近隣に住む高齢女性のご自宅に立ち寄った際に「突然ガス会社の方が家に来て、給湯器の修理のための費用が必要だといわれた」と聞きました。不審に思いガス会社に確認したところ、そうした事実はないことが判明。警察にも連絡をし、事なきを得ました。

●自分の強みを生かした活動を

代々ここに暮らしているため、地域の方々に自分のことを知ってもらっているという強みがあります。見守りで訪問したときも「原田さんのところのあきちゃん」として、温かく受け入れてもらえることが多いです。これからも、地域とのつながりを生かして活動したいと思っています。

また、民生委員活動への理解がある家族の存在も大きいです。家族の協力なしでは成り立たないと感じることもあり、日頃の感謝を忘れずに活動を続けていきたいと考えています。

地域で活躍する民生委員・児童委員(以下、民生委員)さんにスポットを当て、その方の思いを紹介します。

今回は、交野市愛溢れる地区委員長の原田さんにインタビュー。活動で大切にしていること、今後の抱負について聞きました。

●生まれ育った交野市のために

はじめは近所に暮らす保護司の方に頼まれ、更生保護女性会に所属しました。そのうち女性会の一員として、校区福祉委員会の活動に加わるように。その活動の中で民生委員を頼まれ、生まれ育った大好きな交野市の役に立てると引き受けました。

現在は民生委員の地区長だけでなく、女性会の幹事、校区福祉委員会子育てサロンの部長として微力ながら奮闘しています。

●じっくりと真剣に相手の話を聞く

活動では、「地域の話には敏感に」、